

は、3自治体は、応援をいただいたことに、今度は相手方で何か災害に遭ったときは、お返ししたい

と飲料会社との2件である。
協定に対する村の考え方については、3自治体は、応援をいただいたことに、今度は相手方で何か災害に遭ったときは、お返ししたい



菰野町での村観光協会干しいもPR

と考えること。また、災害時ばかりではなく互いに顔の見える関係を保つことが肝要かと思うので、日頃から民間レベルでの交流を進めていき、やがては、国内姉妹都市交流まで発展させていきたいと考えている。



問 災害時相互応援協定先との関係を深めるべき
答 日頃から民間レベルでの交流を進めていく

新和とうかい 河野 健一 議員

と役場執行部では考えている。
議員 ここ数年は転入者の多くが子育て世代であり、その結果、出生者数が横ばいで人口増が継続した。しかし、今年度から転入者が減少しており、今後は出生者数も減少するのではないかと。つまり、今までの人口増の傾向が大きく変わってくると

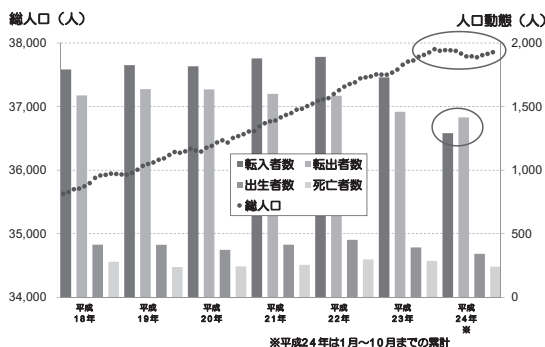
化をどう認識しているのか？
総合政策部長 10月1日時点における村の人口は38,372人（外国人含む）となっており、第5次総合計画の低位推移にはすでに近い数値となっている。また、人口の変化については、右肩上がりの線が下がってきているが、現状では「想定内」と役場執行部では考えている。

議員 平成24年度に入り、人口増加にブレーキが掛かっているように見受けられる。こうした人口推移の変化をどう認識しているのか？



問 村の人口推移の変化をどう認識しているか？
答 現状では「想定内」と考えている

新和とうかい 越智 辰哉 議員



予想しており、少し先を想定して施策を検討すべきではないか？
総合政策部長 第5次総合計画の後期計画を立てていく中で、人口の変化を詳しく分析して政策に反映していく。